

# 流域治水 知るから始まる自分事化

撮影・大谷七奈さん(埼玉大学工学部環境社会デザイン学科1年)



座談会は埼玉大学で、それぞれが選んだ「この1枚」から話題を広げた。レンズで切り取った風景は、川と深くかかわる人や暮らしの姿だった

## これからの治水対策 流域全体で

全国各地で毎年のように豪雨の被害が発生している。地球温暖化に伴って豪雨の発生頻度や雨量は今後も増えると考えられ、これまでのダムや堤防などの整備といった対策だけでは水害を防ぎ切れなくなっている。「流域治水」は河川を管理する国や県、市町村に加えて住民や企業なども協働し、流域全体で様々な対策を講じて被害を抑える必要がある。

本田 親しむ、楽しむことが河川や施設を知るきっかけになって、洪水から暮らしを守る仕組みや役割、機能の理解につながると思います。撮影会に参加された皆さんと、「知る」から始める流域治水について考えていきます。まずは、皆さんの作品を紹介してください。

荒川を撮りました。許可がないと立ち入れない特別な場所、川と街が近いことがよく分かります。夕方の穏やかな風景に、水害を防ぐ、守りたいという荒川と暮らしのつながりが感じられると思います。

設置するものと思っていたので驚きました。実は、奥には川があつてクレーン車が動いていました。画角を工夫すると、もっと良かったと思います。

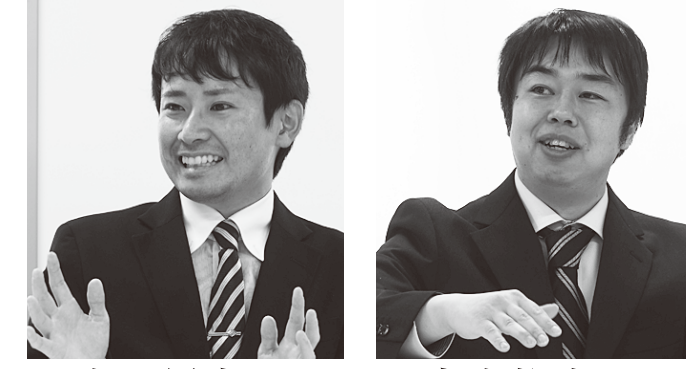
富樫 荒川第一調節池内にある集落跡に残る祠です。かつては洪水で浸水する土地にも人の暮らしがあつて、遊水機能を果たしていたと知りました。その知恵を、今は計画的に生かしていることが興味深いです。水害と暮らしの関係が感じられる1枚になったと思います。

加納 良くないとは思うけど、写真部リアル。水害を自分事化するのには難しいですが、経験が当事者意識につながると思います。洪水ハザードマップを確認すると、実家が4m浸水するところがありました。

打越 祖父は川の近くに住んでいます。あるとき、その川がはみ出しそうだと知って、ご近所に避難させてもらうように連絡しました。大事には至らず、ほっとしました。最近では「近づくに避難」も有効な選択肢の一つといわれています。

石原 沖繩出身です。台風の接近は事前に分かります。窓に新聞紙を貼る、カセットガスを用意するなど備えるのは当たり前でした。最近、想定を上回る災害が話題になります。治水対策は、行政に任せただけでなく、市民や企業も自分事として行動することが被害の軽減につながると思います。

難経路を家族で共有するなど、私にもできることを意識するようになりそうです。本田 激甚化している自然災害には、これまで以上に行政だけでは対応しきれなくなっています。流域治水は市民や企業、団体など流域全体が協力して取り組むもの。まずは当事者意識を持つことが大切で、知って何ができるかを考え、行動することです。防災・減災につながります。宮本 地域を守るという広い視野の行動でなくてもいい。自分や家族、友人を守る行動も流域治水です。自分事化は、家族や仲間と話題にすることから始まるとも思います。ぜひ、学生の目線で、皆さんらしく考えていただけたらいいです。



本田優太さん 国土交通省荒川上流河川事務所 流域治水課係長

治水に取り組んでいます。大規模な事業では、川島町の高台避難所の整備。行田市の田んぼなども注目されています。身近なところでは、公園や校庭、建物の地下などに雨水を一時的にため、川へ流れ込む量を抑制する取り組みもあります。

### できること 知る努力必要

撮影会を知る機会になって、私は幸運でした。こうした機会を中高でもっと増やしてほしいと思います。

村田 耳慣れない言葉の印象から、流域治水が新しい取り組みであることは分かります。一方で、私たちにできること、すべ

### 家族や友人へ伝え広げたい

打越 自分地域の現状から、水害を想定した避難訓練の機会が少ないように感じます。また、上下流の関係で、雨が降っている地域と水害が予想される地域が異なる場合があつて、危機感を持ちにくいと思います。

宮本 経験が当事者意識につながる。という意見が印象に残りました。5感を使った広報のあり方を模索する手がかりになりそうです。



加納裕也さん 埼玉大学工学部応用化学科4年

宮本 水害はある程度予測できます。ただ、たとえ備えていても、いざというときには冷静に行動するのは難しいです。そこで、マイ・タイムライン(防災行動計画)を作成して目につく場所に張っておくことをお勧めします。写真部ならではの計画があつてもいいと思います。

### 川と暮らしのつながりに気づく

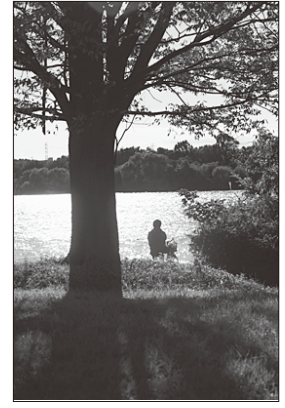
加納 良くないとは思いますが、写真部リアル。水害を自分事化するのには難しいですが、経験が当事者意識につながると思います。洪水ハザードマップを確認すると、実家が4m浸水するところがありました。

石原 沖繩出身です。台風の接近は事前に分かります。窓に新聞紙を貼る、カセットガスを用意するなど備えるのは当たり前でした。最近、想定を上回る災害が話題になります。治水対策は、行政に任せただけでなく、市民や企業も自分事として行動することが被害の軽減につながると思います。

### 家族や友人へ伝え広げたい

打越 自分地域の現状から、水害を想定した避難訓練の機会が少ないように感じます。また、上下流の関係で、雨が降っている地域と水害が予想される地域が異なる場合があつて、危機感を持ちにくいと思います。

宮本 経験が当事者意識につながる。という意見が印象に残りました。5感を使った広報のあり方を模索する手がかりになりそうです。



加納さんの1枚



富樫さんの1枚



村田さんの1枚



石原さんの1枚



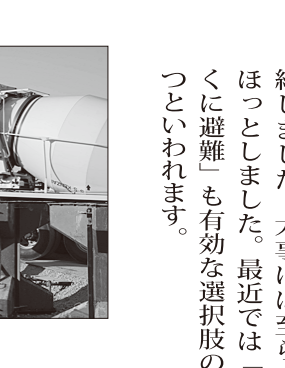
打越さんの1枚



村田さんの1枚



石原さんの1枚



打越さんの1枚



石原さんの1枚



打越さんの1枚